



明中通信

No.8

発行 校長 中尾安伸

<学校教育目標> ひと・もの・ことと豊かに関わりながら たくましく生きる生徒の育成

学校ホームページ <http://www.fujisawa-kng.ed.jp/jmeij/>

<保護者の皆様へ>

①学校評価へのご回答ありがとうございました。いただいた評価を参考にして今後の学校運営にいかして参ります。今後とも、ご支援ならびにご協力のほどよろしくをお願いいたします。まどめができましたらご報告させていただきます。



②ご多用の中 12/1～7の三者面談にお越しいただきありがとうございました。お子様の成長をともにサポートするパートナーになれるよう今後も尽力いたします。よろしくをお願いいたします。

中尾 安伸

<伝えたいこと① (自分が納得する優先順位をつける)>

今年も残り半月ほどになり、この時期「よい年の瀬をお過ごしください。」とよく耳にします。年の瀬の瀬は流れが急で速い川を示す言葉であり、年に瀬という言葉を組み合わすことで、12月の忙しく慌ただしく時間が過ぎていく様子を意味しているそうです。一つの区切りですから、今年できることは今年のうちにと考えたり、一年間を振り返ったり、大掃除などをして新たな気持ちで新年を迎えたいなど。良い気持ちでスタートしたいと考えます。そこで、2つの提案です。まず、残り半月でやっておきたいことを書き上げます。それに優先順位をつけてください。全て出来れば完璧ですが出来なかった時、自分で納得した順位でやったことならば新年にクヨクヨすることが少なくなるはずです。もう1つは今年を振り返るときに来年やりたいことを書き上げて、これまた自分で優先順位を決めて置くのはどうでしょうか。「一年の計は元旦にあり」。2022年 良い一年のスタートを切ろうじゃありませんか。

<伝えたいこと② (「できる」を選択していい)>

先日テレビを見ていたら、「『できる』を選択していい。」と主人公が多くの人前で語りかけるシーンを見ました。私は、なぜかその言葉が今でも耳に残っています。主人公はその前後の場面でも熱く語り、私が納得できる話をしていました。でも、私の頭の中にその言葉だけが何度も浮かび上がってくるのです。



代わり映えのないよく使われるシンプルな『できる』と「選択していい」の組み合わせが私の中では「力(勇気)を与えてくれる言葉」に「映え」ました。言葉には不思議な力があるもので、組み合わせによってその力を大きくします。今まで私が頭の中で考えてきたこととこの言葉の組み合わせが共鳴したんだと思います。「自分には無理。」「頑張っても無駄だよ。」「できる人は最初から違うんだ。」など。そう思ってしまう生徒と、私は何人も部活動や学習を通して向き合ってきました。「できる」という言葉は抽象的です。勝利したり、成績が上がったりしないと「自分ができた」と認められない生徒もいます。時には勝っても、上がっても認められない生徒もいました。しかし、真剣に取り組む成長する自分を楽しめたり、努力を続けられる自分に自信が持てたりする生徒がいました。このような生徒は、笑顔が多くなり、表情が変わっていきます。

『自分を心底笑顔にすること』、これは『できた(る)』と同じことではないでしょうか。努力を積み重ねることは必ずその『できた(る)』に繋がると私は信じています。私と向き合った生徒からそのことを教えてもらいました。だから「『できる』を選択していい。」という言葉が頭の中に残り、浮かび上がってきたのです。これからも大切な言葉にしていきます。多くの生徒が「やれば できる(伸びる 楽しめる)」という最も重要な「マインドセット」を(中学時代に)心の中に醸成してほしいと願っています。



<側溝掃除（おやじの会に感謝）>

12/11土曜日。左の写真の通り、多くの方が参加してくださいました。本校のグラウンドは近隣の住宅や道路へ、一気に水が流れ出さないように一時貯水する場所となっています。そのため雨水は一度溜まるようになっているのです。でも先日のような大雨の場合…。



側溝に泥が溜まってしまっていたために、水が引かずグラウンドの所々に水溜まりが残ってしまったり、側溝の流れが悪いことで排水機能が落ちてしまったりしている状態でした。

今回、おやじの会の皆様のおかげでグラウンド周り全ての側溝清掃ができました。同時にグラウンドの水溜まりがしやすい凸凹したところにも土を盛ってくださいました。多くの労力を注いでいただき、さぞお疲れだったことと思います。また、お休みのところすみません。

それでも、左上の写真。作業後の「達成感」と「明中愛」を感じさせる素敵な笑顔が見られたこと、とても嬉しく思います。本当にありがとうございました。

<コサージュづくり（プチボランティア）>



12/1～12/7の面談の期間中に保護者の皆様にプチボランティアとして呼びかけ、コサージュづくりが行われました。「家にも持ち帰ってやりたい。」や「短時間で協力がし易い。」などの声が聞けたとのこと。ご協力いただいた保護者の皆様ありがとうございました。



<青少協音楽会（吹奏楽部参加）>



12/4 明治地区青少年育成協力会が主催する「音楽会」が明治市民センターにて行われました。

例年ですと保護者の方や地域の方々にもお聞きいただく音楽会なのですが、今年度は感染予防という観点から羽鳥中と本校の吹奏楽部、そして湘南高校の合唱部と3校が日頃の成果を互いに聞き合う会となりました。どの学校も聞いている人を惹きつける工夫が施され、素敵な音楽会となりました。特に湘南高校の合唱に圧倒されました。今回音楽会を通して、音楽の持つ表現力や想像力などその素晴らしさを改めて知ることができました。



青少年育成協力会の皆様、青少年ふれあいネットワーク関係の皆様が何ヶ月も前からこの日のために感染対策など様々なご対応をご尽力いただいたことで貴重な発表の場を与えていただくことができました。誠にありがとうございました。

<伝えたいこと③（「利他 人は人のために生きる」）>

ある老師の話によれば、「地獄」と「極楽」は、見た目ではそれほど違いはないという。どちらにも、大きな釜に美味しそうな「うどん」が煮えており、みんなが1メートルもある長い箸を持っている。では何が違うのだろうか。

地獄の住人は、われ先にと食べようとするが、箸が長すぎて自分の口にうまく運べず、他人の箸の先のうどんを奪い合うようになり、結局、みんなが飢えて、痩せ衰えていく。

一方、極楽では、誰もが箸でつかんだうどんを、向かい側の人に先に食べさせてあげている。だから全員が満ち足りているのだ……。

生き方しだいで「地獄」は「極楽」に変わる。どんなに生きづらくとも、"誰かのため"なら、もっとよく生きられる----この話は、そんな示唆を与えてくれる。

これは、先日99歳で亡くなられた瀬戸内寂聴さんと京セラの創業者であり日本航空の再建を果たした稲森和夫さん。2人の協同著書「利他 人は人のために生きる」の説明として、引き合いにも出される挿話です。知っている人も多いと思います。

私は「なるほど」と理解・納得はできます。でも私に実行は…。

これは私の推察です。これはお二人にとっても、きっと難しい、けれども大切なことだったのでないでしょうか。お二人が後生に残すために執筆された本なのだと私は思っています。

「…のため」という言葉を嫌う人もいます。それでも、今回はこのお2人が使用を許可してくれていると考えて、存分に「…のため」という言葉を使うことにします。

「利他 人は人のために生きる」 【利他】とは 自分を犠牲にして他人に利益を与えること。

【利他⇄利己】の関係 【利己】とは 自分一人だけの利益を計ること。

中学生のみなさんにとっては「人は人のために生きる」という言葉は早いかもしれませんが。相手の口にご飯を運ぶことは増えましたか？ また、もらい方も上達したのでしょうか。その練習の場所が家庭であり、学校であり、地域であり、いずれ職場となります。人と人が生活、仕事、遊びを通して「人は人のために生きる」ということを学んでいくのではないのでしょうか。練習を通して、うどんを運ぶ回数が増えたり、もらい方が上手になったりするのでしょうか。

①先日、近隣の方から感謝の電話をいただきました。風で飛んでしまったゴミが散乱してしまい、必死に回収していましたがどうにもならず途方に暮れかけたとき、本校のある部活動の生徒たちが駆け寄って一緒に片付け、回収してくれたというお話でした。たいそう喜んでいらっしゃいました。

②ある日の放課後。生徒が数人昇降口にいました。何かやっているのかなとその生徒の様子を見ていました。すると…。

なんと2人は掃除をしていたのです。当番なのかな？ と後で確認したところ、そうではありません。定期的にかつ自主的にやってくれているようなのです。感謝です。ありがとう。

③前述したように、面談期間中に行われた保護者の方のプチボランティアで卒業式のコサージュづくりがありました。

1, 2年生の保護者の方も多く参加してくださりました。

またおやじの会のプール清掃、側溝清掃、夜のパトロールなどの活動もそうですよね。中には、お子さんがこの中学校を卒業して20年になる方も参加していただけているとのこと。

「明中愛」万歳です。とっても有り難いです。



我が子のために、我が子がお世話になった上級生や学校のために、家族が暮らす地域のために。

④地域の方々には心温まる行事・事業を PDCA サイクルの考えを持って、より良いもの、より安心して楽しんでもらえるものをと用意して下さっています。前述した青少協音楽会、こどもの居場所づくりや学習室もそのひとつです。一概に「用意」と言っても、場所確保から情報発信、人の確保や調整、今は感染対策もあり、簡単ではありません。地域の方々にはみなさんの応援者でいてくれています。

人と人とのつながりを大切にすることを背中で見せていただいているように感じます。

子どものため 生徒のため 親のため 地域のため 上級生のため 下級生のため
同窓生のため 兄弟姉妹のため 対戦者のため 学校のために 先生のため

そして 自分のため それが 自分のため **自分も人も大切に**

<部活動の結果（運動部新人戦の上位大会出場報告等）>

ソフトボール部	藤沢市大会	準優勝	（県大会出場）
男子バレーボール部	湘南大会	第3位	（県大会出場）
女子バスケットボール部	湘南大会	ブロック優勝	（県大会出場）
サッカー部	藤沢市大会	第3位	（湘南大会出場）
陸上競技部	藤沢市大会	第3位	（伴 怜 君 800m）

<秋の星空観察（天体に興味を持てた人 増えたかな？）>
観測前に菊池先生から予備知識 一番星が見えてきた

理科の先生総揃いで補助



何人かな？望遠鏡4台も長蛇の列



11月25日と26日に星空観察を行いました。明治中学校のグラウンド（校舎南側）がこんなに星空観測に相応しい場所とは私は初めて知りました。

16:00 から予備知識講座を菊池先生が行い、16:30 から下校時間を30分延長し、17:30まで。希望者を募り開催しました。予想より、希望者が多く、天体望遠鏡の台数を増やすほどでした。金星、木星(ガリレオ衛星含)、土星、夏の大三角(ベガ アルタイル デネブ)、ペガサス座の観察。生徒は望遠鏡の設定等の技術も見ながら、「見えた！」という声があちらこちらで聞こえました。理科の先生以外にもたくさんの先生と一緒に参加してロマンの世界にひたってしまいました。天気にも恵まれ素敵な2日間になりました。

あちらこちらで聞こえました。理科の先生以外にもたくさんの先生と一緒に参加してロマンの世界にひたってしまいました。天気にも恵まれ素敵な2日間になりました。

<2年合唱コンクール（学校に歌声が戻ってきた）>

11月25日本校の体育館にて2年生の合唱コンクールを行いました。各家庭1名というまだ制限付きではありましたが、久しぶりに保護者の方に参観していただける行事になりました。

コンクールは司会進行から、誘導まですべて実行委員をはじめとする生徒が中心となっていて行っているものとなりました。その姿に嬉しさと久々感も重なって感動して…。

今回2年生は順位を決めることは行わず、それぞれの取り組みに合わせた賞ということで学年職員から各学級に賞状が渡されました。

25組 「虹色の未来」

26組 「My Own Road」

23組 「命ある限り」



22組 「瑠璃色の地球」

21組 「自分らしく」

24組 「君とみた海」



職員合唱
「いのちの名前」



* 3年生は12/23 本校体育館にて現在練習中。3年生らしい豊かな厚みのある歌声が学校に響いています。各家庭1名保護者の方に参観いただけます。保護者受付は13:15～13:35(予定)
* 1年生は3月予定です。よろしくお願いいたします。